

## 七週間の札幌【3】

競馬を題材とした作品を手掛けている早見和真さんに、札幌競馬を舞台としたエッセイを執筆頂きました。  
2回札幌競馬ではクリアファイルを制作しプレゼントを予定しています。

# 道が拓ける

函館開催も含め、北海道地区で唯一施行されるJRAのダート重賞「エルムステークス」。

アドマイヤドンの衝撃の9馬身勝ちや、

いまやトップ騎手の仲間入りを果たした横山和生ジョッキーの重賞初勝利など、

真夏の札幌を彩る記憶はたくさんあるが、

僕の印象にとくに深く刻まれている一頭はパーソナルラッシュだ。

唯一の三歳馬の勝利であることや、やはりたった一頭の連覇達成など、

まるでこのレースの申し子のような馬ではあるが、

それ以上に鮮烈だったのはその後のレース選択だ。

三歳時、6番人気でエルムステークスに出走するとき、

そのわずか二ヶ月後に世界最高峰のダートレース、アメリカの「BCクラシック」に、

デットローリを背に挑戦するなど誰が想像できただろう。

しかも相手は、勝ったゴーストザッパーを筆頭に、

前年覇者のプレザントリーパーフェクト、

ロージズインメイにアゼリまでいるような猛者ばかりだ。

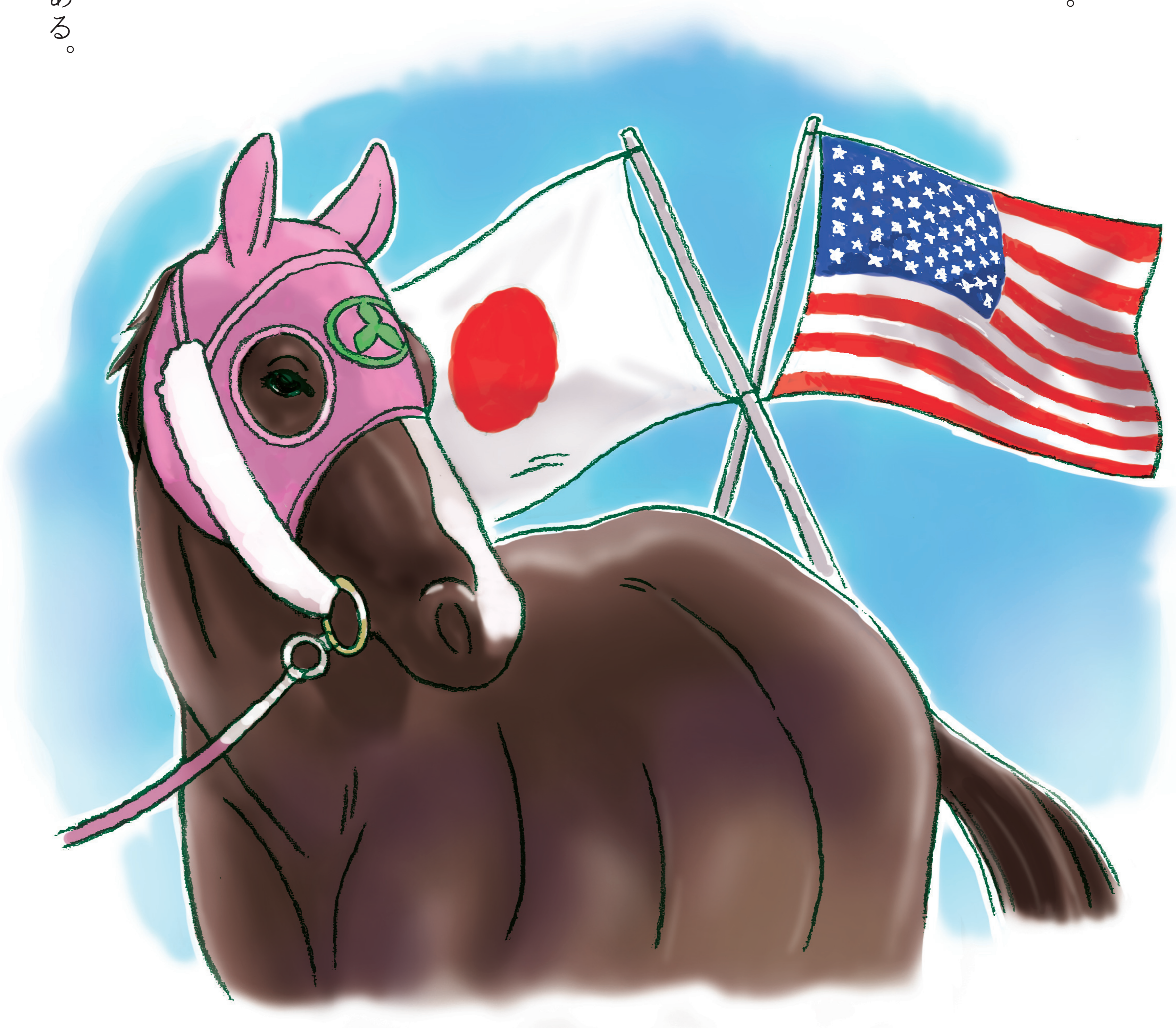
その馬たちを向こうに回して得た6着という結果は、いまのところ日本馬最高のものである。

もちろんレースそのものも楽しみではあるけれど、

真夏の札幌を経験した馬たちにどんな未来が待っているのか、想像するだけでワクワクする。

秋以降の主人公はきっといる。

そんな期待を胸に、今年も熱いレースに立ち会いたい。



文:早見和真

1977年神奈川県生まれ。「インセント・デイズ」で日本推理作家協会賞、「ザ・ロイヤルファミリー」で山本周五郎賞、JRA賞馬事文化賞をW受賞。「店長がバカ過ぎて」で20年本屋大賞9位。初のノンフィクション「あの夏の正解」は21年Yahoo!ニュース本屋大賞ノンフィクション本大賞にノミネート。最新作は「八月の母」。

画:倉橋寛之

1972年北海道生まれ。札幌を中心にアートディレクター、イラストレーターとしてデザイン・広告業に従事。2009年TOKYO ADC(東京アートディレクターズクラブ)ADC賞受賞。現在、株式会社9Bデザイン代表。